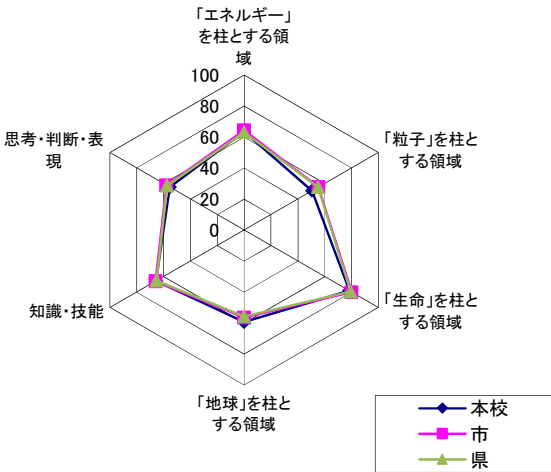


宇都宮市立瑞穂台小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	50.5	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.4	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	59.3	56.4	55.8
観点	知識・技能	65.6	66.0	65.3
	思考・判断・表現	55.4	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	正答率は市平均と同程度である(−0.8ポイント)。 ○「電気のはたらき」では、直列つなぎを理解している。 ●電流が流れない回路を流れるように改善できるかという設問の正答率が低い。	・電流が流れる回路の仕組みについて正しく理解させるために、授業の中で回路を作る活動を十分に取り入れる。児童が操作する活動を多くとることで、体験を通して理解を深める。
「粒子」を柱とする領域	正答率は市平均を下回る(−4.9ポイント)。 ○「とじこめた空気や水」では、閉じ込めた空気を圧した時の押し返す力についての設問の正答率が高い。 ●閉じ込めた空気は押し縮められるが水は押し縮められないという設問の正答率が低い。 ●「ものの温度と体積」の正答率が低い。	・実験の結果と身の回りの事象を結び付けて考えられるように実体験をできるだけ取り入れ、さらに、日頃から自分の考えを記述したり、意図的に話し合ったりする活動を行う。
「生命」を柱とする領域	正答率は市平均をやや下回る(−1.7ポイント)。 ○「冬の生き物」では、動物の越冬について調べた結果を基に、考察を選ぶ設問の正答率が高い。 ●「ヒトの体のつくりと運動」では、人の手や腕の骨と鳥の翼の骨について、骨と関節の差異について記述する設問の正答率が低い。	・全体的に、理科的な見方や考え方、知識は身に付いているので、さらに発展的な問題を扱ったり、実験や観察の機会を増やしたりする。また、小グループでの発表の場面を意図的に取り入れる。
「地球」を柱とする領域	正答率は市平均を上回る(+2.9ポイント)。 ○「水のゆくえ」では、蒸発について理解しているかどうかの設問と空気中の水蒸気が冷やされると結露して水となる設問の正答率が高い。 ●天気と1日の気温についての選択問題の正答率が低い。	・実験や観察の結果や分かったことなどを自分の言葉で簡潔に記述させたり、キーワードを大切に、それを文章に表現したりする活動を意図的に取り入れる。